



今月の題字
福士美咲ちゃん
(大沢小3年)

町のあたい

織笠地区で第8回植樹祭 緑の成長願い丁寧に植える

山田の海を守る会（会長・沼崎喜一町長）が主催する「山に広葉樹を植える運動」第8回植樹祭が5月11日、織笠新田地区の町有地で開かれました。海との結び付きの強い森の大切さを再認識してもらおうと行われているもので、町内の森林愛護団体や海づくり少年団、漁協関係者など350人が参加。この日植えられたのは、コナラとブナの苗木600本。参加した皆さんは小さな緑の成長を願いながら、一本一本丁寧に植え込んでいました。



ジャンボ鉄板で作る春ガキの酒蒸しの試食コーナーでは、用意した1,200食分があっという間になりました



養殖いかだの見学会では、普段見ることのできないカキの養殖風景に歓声が上がっていました

三陸山田カキまつりに8,000人 旬の味覚まるごと味わう

旬の味覚カキをまるごと味わう「三陸山田カキ（活気）まつり」が4月27日、山田魚市場で開かれました。山田町商工会が中心となって組織する山田の魅力発信実行委員会（阿部幸栄会長）が、通年事業「三陸山田楽山楽水の郷2008」の一環として開催したもので、会場は町内外から訪れた8,000人の行楽客でにぎわいました。カキ汁や直径約2.5mのジャンボ鉄板で作る「春ガキの酒蒸し」の試食コーナーには長蛇の列ができ、販売コーナーで買い求めた海産物をその場で焼いて食べられるバーベキューコーナーも大盛況。また、二本カギを使い2分間取り放題の「カキ・ホタテすくい」のほか、特製釣りざおで輪のついたカキを釣る「ちびっこカキ釣り大会」やカキむき体験なども行われ、子供から大人までが次々と挑戦。漁船による養殖いかだの見学会も行われ、訪れた人たちはカキの魅力を存分に堪能していました。

明治41年生まれの3人が100歳に 周囲から暖かい祝福受ける

船越地区の芳賀やエノさん（明治41年5月5日生まれ）と織笠地区の山屋ナカさん（同5月10日生まれ）、境田地区の石山キヨミさん（同5月15日生まれ）が満100歳の誕生日を迎えました。5月7日には、芳賀さんの自宅を沼崎喜一町長が訪れ、「100歳おめでとうございます。これからも長生きしてくださいね」と、長寿祝い金を手渡しました。芳賀さんは「どうもありがとうございます」とお礼を言い、祝福に訪れた親族の皆さんとともに長寿を祝っていました。同月20日には介護老人保健施設シーサイドかる（近藤勝雄施設長）で、山屋さんと石山さんの「百歳を祝う会」が開かれました。会では、山屋さんと石山さんに近藤施設長から印籠と「印籠の掟」、沼崎町長から長寿祝い金が贈られたほか、お祝いにはまなす学園の利用者3人による踊りが披露されるなど、ご家族や利用者の皆さんから暖かく祝福されていました。



5月7日には芳賀やエノさん宅を訪問し祝福しました



5月20日にはシーサイドかるで行われた「百歳を祝う会」で山屋ナカさん（写真左）と石山キヨミさんに祝い金を贈呈しました



荒川小で田植えの体験授業 泥だらけで作業に取り組む

5月14日、荒川小学校（高橋尚子校長・児童45人）では田植えの体験授業が行われました。農業の大切さを知らせてもらうと毎年行われているもので、地区内の学校田には全校児童が参加。子供たちは老人クラブや祖父母の指導を受けながら、はだしになって一株一株丁寧に苗を植え付けました。慣れた手つきで作業をこなす上級生に対し、全身泥だらけになりながら懸命に苗を植える低学年の子供たち。ぬかるみに足を取られながらも、元気いっぱい田植え作業に取り組んでいました。

ふれあい広場に園児170人 人形劇の上演に大はしゃぎ

5月22日、「子どもふれあい広場」が開かれました。これは児童福祉週間の一環として毎年行われているもので、会場となった町中央公民館には町内の幼稚園や保育園などの園児ら170人が参加。参加者全員でリズム遊びを行ったほか、劇団貝の火（東京都）による人形劇「こぶとりじいさん」と「わらしべ長者」が上演され、子供たちは人形の動きに笑ったり驚いたりしながら、物語に夢中になって大はしゃぎ。同広場終了後、子供たちは出口へ見送りに来た人形と握手をしたり、「バイバイ」と手を振ったりと、いつまでも別れを惜しんでいました。

